

2022年度 自己評価表
広島YMCA専門学校

1. 学校の教育目標

ポジティブネットのある豊かな社会の形成を目指して、「愛と奉仕」の精神を体得し、社会に貢献できる人材を育成する。

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

- ① 安全・安心な学校生活のための感染予防対策の継続的实施
- ② 生徒一人ひとりの特性に合った寄り添いの強化
- ③ 留学生の多様化する進路への対応強化
- ④ 商業系学科における留学生受け入れ体制の整備
- ⑤ ICTを活用した教育方法の一層の推進
- ⑥ 言語コミュニケーション科におけるオーラルコミュニケーション力の強化
- ⑦ 現状に沿った広報活動による効果的な生徒募集
- ⑧ 新規事業としての外国人労働者を抱える企業に対する日本語レッスンの運営方法の確立

3. 評価項目の達成及び取組状況

(1) 教育理念・目標

評価項目	適切…4 ほぼ適切…3, やや不適切…2 不適切…1			
理念・目的・育成人材像は定められているか (専門分野における職業教育の特色は何か)	④	3	2	1
学校における職業教育の特色は何か	④	3	2	1
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	④	3	2	1
理念、目的、育成人材像、特色、将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	4	③	2	1
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	④	3	2	1

① 課題

YMCAが christianity を基盤とし、「愛と奉仕」の精神を教育理念に据え、公益活動への参加、留学生との交流、他部門会員との関りを通じて、在学中自然と国際性や社会性が身に付く環境が整っていることをホームページ、募集パンフレットやオープンキャンパスで積極的に紹介している。それを踏まえて入学している生徒も少なくない。新型コロナウイルス感染症の感染が収まらない中、如何にしてYMCAらしさが感じられる学校行事を継続できるかが課題であった。2022年度は、入学式後の入学オリエンテーション、2年生の始業式において年度の学校行事について説明を行い、従来の学校行事のやり方を変更した取り組みに積極的に参加していただくよう理解を求めた。

② 今後の改善方策

教職員に対しては今年度初めに行われた教職員会議、全体講師会議の席で本校の教育理念、育てる生徒像について説明を行い、授業や日頃の生徒との関りの中で具体的なアクションとしての理解と協力を促した。保護者に対しても、保護者会の席や学校通信等の紙媒体、SNS等のメディアを通して、継続して周知することが必要と考える。

③ 特記事項

各学科の教育課程編成委員会の提言を反映させた業界のニーズに沿ったカリキュラム等の策定と併せ、実習での各企業のご協力のもと、実践力のある人材育成が進められている。引き続き将来を見越した教育内容となるよう努めたい。

(2)学校運営

評価項目	適切…4 ほぼ適切…3, やや不適切…2 不適切…1			
目的等に沿った運営方針が策定されているか	④	3	2	1
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	④	3	2	1
運営組織や意志決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	④	3	2	1
人事、給与に関する制度は整備されているか	④	3	2	1
教務、財務等の組織整備など意識決定システムは整備されているか	④	3	2	1
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	④	3	2	1
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	④	3	2	1
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	④	3	2	1

① 課題

言語コミュニケーション科と他学科において、学事日程、授業評価システム等多少の差異はあるものの、すり合わせを継続している。合同の学校行事も増えてきており、学校運営上、問題となるようなことはない。

② 今後の改善方策

①の点については、今後も校長、学校運営管理メンバーで構成される学校運営会議の席でコミュニケーションを取りながら意志決定を行う。

③ 特記事項

学校の内外に向けて開かれた風通しのよい学校運営のため、業界との意見交換、地域社会との連携を深めることが求められる。

(3)教育活動

評価項目	適切…4 ほぼ適切…3, やや不適切…2 不適切…1			
教育理念等に沿った教育課程の編成実施方針等が策定されているか	④	3	2	1
教育理念,育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか。	④	3	2	1
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	④	3	2	1
キャリア教育実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫開発などが実施されているか。	④	3	2	1
関連分野の企業関係施設等,業界団体等の連携により,カリキュラムの作成見直し等が行われているか	④	3	2	1
関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ,実技実習等)が体系的に位置づけられているか	④	3	2	1
授業評価の実施評価体制はあるか	④	3	2	1
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	④	3	2	1
成績評価単位認定の基準は明確になっているか	④	3	2	1
資格取得の指導体制,カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	④	3	2	1
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	④	3	2	1
関連分野における業界との連携において優れた教員(本務兼務含め)の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	④	3	2	1
関連分野における先端的な知識技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4	③	2	1
職員の能力開発のための研修等が行われているか	④	3	2	1

① 課題

学科により教員に対する研修の取り組みに差異が見られる。コロナ禍で対面での研修が困難な場合はあるが、オンライン研修等も活用し、すべての学科において、資質向上のための研修を実施する必要がある。

② 今後の改善方策

教員に対する学校側の評価や期待に基づいた研修の受講を勧める。また、教員自身の自己研鑽意識による研修受講として、業界団体での実務研修参加を積極的に奨励し、指導力向上や業界の現状把握につなげていく。

③ 特記事項

(1)③でも記載したとおり、各学科の教育課程編成委員会により、外部委員の業界理解と先見性を反映させたカリキュラムの改定が毎年行われている。また、授業等の実践においても、タイムリーなご意見をいただき、適宜修正を行っている。特にインターンシップにおいては、受け入れ側の立場からご意見を頂戴し、実習期間や実習内容等、条件整備を行うことができた。

(4) 学修成果

評価項目	適切…4 ほぼ適切…3, やや不適切…2 不適切…1			
就職率の向上が図られているか	④	3	2	1
資格取得率の向上が図られているか	④	3	2	1
退学率の低減が図られているか	④	3	2	1
卒業生在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	④	3	2	1
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	4	③	2	1

① 課題

職業実践専門課程3学科の就職希望者の2022年度就職内定率(2022年度最終時点)は医療事務科100%、ホスピタリティ科100%、社会体育科100%であった。2022年度は、アフターコロナを見据えた採用意欲向上を受け、ホスピタリティ科の企業説明会、就職試験が早まり、4月に殆どの主要ホテルの説明会、就職試験が実施され、7月末には9割の生徒の就職内々定が決まった。医療事務科、社会体育科に関しては例年通りの動きとなり、7月、8月辺りから少しずつ内々定者が出始め、12月に就職希望者は全て内定を勝ち取った。業界内定率という点ではホスピタリティ科、医療事務科は約9割が内定したが、社会体育科は約6割に留まり、今後も一定数は他業種への就職があるものと思われる。

② 今後の改善方策

入学時の学科選択が出口の就職先と接続するよう、修得した専門知識・スキルと関係のない安易な就職先に決して終わらぬよう在学中に適切な進路指導を重ねる必要はあるが、他業種への就職も視野に入れなければならない。進路変更が退学につながることはないよう、今後も生徒ひとり一人への対応を担当、キャリアセンターの連携を密にして実施する。

③ 特記事項

卒業生において、就職後1, 2年間で早期離職した事例が見受けられる。昨年度の反省から卒業後も担任が寄り添い、定期的に状況を把握、相談に乗る体制を取り、不幸にして離職することとなっても次の就職先につながるよう相談や紹介を続け、再就職や内定先との円滑な関係を保つようにしている。今後も在学中から生徒との良好な関係を構築し、卒業後も支援していくことを伝え、安心して社会に出られるようにしていきたい。

(5) 学生支援

評価項目	適切…4 ほぼ適切…3, やや不適切…2 不適切…1			
進路就職に関する支援体制は整備されているか	④	3	2	1
学生相談に関する体制は整備されているか	④	3	2	1
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	④	3	2	1
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	④	3	2	1
課外活動に対する支援体制は整備されているか	④	3	2	1
学生の生活環境への支援は行われているか	④	3	2	1
保護者と適切に連携しているか	④	3	2	1
卒業生への支援体制はあるか	4	③	2	1
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4	③	2	1
高校,高等専修学校等との連携によるキャリア教育職業教育の取組が行われているか	4	③	2	1

① 課題

卒業生への支援については、(4)で記載のとおりである。近年増えているのは、大学や短大を辞め、学び直しのために入学してくる生徒、発達障がい疑われる生徒の入学である。また、生徒の経済的な負担を軽減するための措置として、新たな特待生制度、奨学金制度の充実が求められている。

② 今後の改善方策

2023年度生より、新たに指定校特待生選抜を設け、指定校からの推薦者に関しては学習面のみならず経済面も考慮して積極的に特待生として迎え、学費負担の軽減を図ることとした。また、コロナ下での留学生入国制限のため、国の修学支援新制度で求められている生徒数を割り、2023年度生より対象校から外れることとなったが、本校への入学を希望する生徒に対して、制度と同等の学費免除を行い、負担軽減に努めることとした。

③ 特記事項

コロナ禍において、春季の留学生入学は依然として厳しいものがあつたが、秋季生徒からは入国が戻り始めた。入国できない留学生に関しては、継続してオンラインでの授業を実施し、入国や学習へのモチベーションの低下しないように努めた。また、経済的に厳しいアジアの国からの留学生に対する支援として、様々な食糧支援、越冬支援プログラムを実施した。

(6)教育環境

評価項目	適切…4 ほぼ適切…3, やや不適切…2 不適切…1			
施設設備は教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	④	3	2	1
学内外の実習施設,インターンシップ,海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4	③	2	1
防災に対する体制は整備されているか	④	3	2	1

① 課題

コロナウイルス感染症対応のため、各教室、実習機器の消毒を心掛け、また、教室の空気の入替えを適宜行い感染防止に努めた。インターンシップに関しては、2022年度もコロナの影響を受け、予定していた夏期の実習を中止した。2022年度はコロナ感染者が出たものの学級閉鎖、学校閉鎖という事態には至らず、オンライン授業への切り替えは無かったが、今後には備え校内の Web 環境整備は喫緊の課題と言える。

② 今後の改善方策

老朽化した施設設備、Web 環境の不備が散見されるため、適宜対応をしていく。インターンシップについては、可能な限り予定している実習を行っていくが、実習先の事情、生徒のワクチン接種状況もあり状況に応じて臨機応変に対応できるよう準備をしておかなければならない。

③ 特記事項

設置基準で「なるべく備えるものとする」とされている図書室は存在するが面積・蔵書数等は不十分のため、2023年度中に蔵書を整理し利用に耐えうるものにしたい。体調不良者を収容する救護室については、室内環境の整備を行い、十分ではないが対応できる環境とした。

(7) 学生の受け入れ募集

評価項目	適切…4 ほぼ適切…3, やや不適切…2 不適切…1			
学生募集活動は,適正に行われているか	4	③	2	1
学生募集活動において,教育成果は正確に伝えられているか	④	3	2	1
学納金は妥当なものとなっているか	④	3	2	1

① 課題

入学生の出身校に対して、定期的に生徒のリアルな情報を提供し、問題がある場合は、出身校の先生も含めて対応していただくようにしている。生徒募集活動に関しては、業者による進学媒体、会場説明会、学校説明会への参加、高校訪問等によって伝えることに努めているが、肝心のパンフレットの内容、ホームページのページ構成の古さ、SNS での情報発信の弱さなど、スマートフォンを日常的に使っている高校生の実態に合わない部分が目立ってきた。また、オープンキャンパスの実施内容も2021年度を踏襲したもので目新しさに欠けている。

② 今後の改善方策

2024年度生募集に向けたパンフレット、ホームページの刷新を急ぐとともに、各種 SNS 対策を実施し、身近

に本校の情報が入手できる環境を整える。言語コミュニケーション科への留学生募集に関しては、国際情勢の影響を少なくするため、中国のみならず、複数の国からの募集を強化しなければならない。

② 特記事項

学納金に関しては学校法人広島YMCA学園が利潤追求を目的としない学校法人であることから可能な限り低廉に抑えるべく努力をしている。同時に学校独自の各種奨学金や授業料減免制度を体力の限界まで設定し生徒・保護者の便宜を図っている。また学費の特別希望回数分納制度については多くの生徒が利用している。

(8) 財務

評価項目	適切…4 ほぼ適切…3, やや不適切…2 不適切…1			
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4	③	2	1
予算収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	④	3	2	1
財務について会計監査が適正に行われているか	④	3	2	1
財務情報公開の体制整備はできているか	4	③	2	1

① 課題

専門学校における経営的安定には、生徒の確保が重要であるが、18歳人口の減少および県外への流失、コロナウイルスの影響による留学生の入国制限、大学等との競争の激化などにより生徒の確保が厳しい状態が続いている。今後、原点に立ち返り、他校に真似できない、国際性と社会性が身に付く、地域に開かれたコミュニティカレッジとしての特長を強め、他校に真似できないYMCAらしさ溢れる学校づくりを進め、入学したいと思う生徒を一人でも多く増やすことが求められる。

② 今後の改善方策

言語コミュニケーション科に関しては、これまでと同様、海外エージェントへの働きかけによる募集活動と国内での他ビザで日本語を学びたいという人材の確保を継続して行う。また、入学生の多国籍化も継続して行う。

③ 特記事項

コロナ禍において家庭の経済状況がさらに厳しさを増しているが、AO奨学制度、特待生学費減免制度は財務状況を鑑みて運用することになる。

(9) 法令遵守

評価項目	適切…4 ほぼ適切…3, やや不適切…2 不適切…1			
法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	④	3	2	1
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	④	3	2	1
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	④	3	2	1
自己評価結果を公開しているか	④	3	2	1

① 課題

法令等については遵守し、運営されているが、個人情報の取り扱いに関しては、今後の社会情勢の変化も見極めながら、対応していくことが大切である。特にジェンダーやLGBTQ、障がい等の個人情報については、慎重に取り扱わなければならない。また、教材作成時に誤って著作権を侵害することが無いように努める必要がある。

⑤ 今後の改善方策

①の課題については、これまでの常識的対応では、通用しない場合が発生すると考えられる。情報の収集、管理、取り扱い等ガイドラインを設けたうえで、個人への尊厳を重視しつつ対応する必要がある。また、著作権侵害を防ぐため、「授業目的公衆送信補償金等管理協会」に保証金を支払い、個別に権利者に許諾を得ることなく授業を行えるようにする。

⑥ 特記事項

個人への尊厳は教育における基本とも言える。特にひとり一人を大切にすることが基本のYMCAとして個人情報の保護、価値教育の徹底を図りたい。

(10) 社会貢献・地域貢献

評価項目	適切…4 ほぼ適切…3, やや不適切…2 不適切…1			
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献地域貢献を行っているか	④	3	2	1
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	④	3	2	1
地域に対する公開講座教育訓練(公共職業訓練等)の受託等を積極的に実施しているか	4	3	②	1

① 課題

コロナ以前は公益財団法人広島YMCA GCC(global community center)の企画する数多くの社会貢献・地域貢献活動に本校の生徒、職員が積極的に参加していた。2022年度も海外交流や平和活動の計画はなされたが実際には中止や縮小が続いているが。そんな中で、ウクライナ避難者の方々との交流活動や日本語教育・就労支援活動、経済的に厳しいアジアからの留学生に対する食糧支援や越冬支援活動、子ども食堂でのボランティア活動など、できる範囲での貢献活動に留まっている。

② 今後の改善方策

社会貢献、地域貢献は本校の教育の一つの柱としている。少しずつウイズコロナ、アフターコロナの機運に傾いているので、できる範囲での活動を積極的に生徒に伝え、隣人に寄り添う活動を続けていきたい。

③ 特記事項

2023年度は公益財団法人 広島YMCAが主催する地域貢献プログラム、障がい者支援プログラムが復活するので、積極的に生徒を動員し、一人ひとりの成長につなげたい。

(11) 国際交流(必要に応じて)

評価項目	適切…4 ほぼ適切…3, やや不適切…2 不適切…1			
留学生の受入れ派遣について戦略を持って国際交流を行っているか	4	③	2	1
受入れ派遣,在席管理等において適切な手続き等がとられているか	4	③	2	1
学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	4	③	2	1
学内で適切な体制が整備されているか	4	③	2	1

① 課題

英国に2つの姉妹提携校、Warwickshire College と Pembrokeshire College がある。加えて2018年度からは新たに提携した英国 Birmingham 市の South & City College が研修先となっている。中国にも提携校の北京科技大学、姉妹提携校の蒙古族学校(モンゴル自治区フフホト市)がある。他にも米国ハワイ州に UH-Kapiolani Community College、オーストラリアタスマニア州に Tasmanian Polytechnic という提携協力校があるが、コロナ感染拡大により、2020年度以降については海外研修を実施できていない。

② 今後の改善方策

コロナ感染拡大による海外への渡航規制の緩和が図られないと海外との交流活動を進めることができない。オンラインでの交流活動も考えられるが、短時間のプログラムとなり、それなりの英語力も必要な事から現実的ではない。また、円安が進んでいる状況下での海外研修は非常に割高であり参加者獲得も難しい。今後を見据え、単独での海外研修・国際交流活動から、他のYMCA専門学校と共同でプログラムの企画・運営を行い、少しでも経費が掛からぬよう、また、交流活動の幅が広がるよう再検討を行う。

③ 特記事項

2022年度に本校生徒が参加した国際交流プログラムは、10 ①で述べたウクライナ避難者の方々との交流活動、経済的に厳しいアジアからの留学生に対する越冬支援活動である。2023年3月にはフィリピン・ワークキャンプが再開されたが、コロナが完全に収まっていない中での海外渡航は保護者に理解を得ることが難しいため、スタッフのみでの参加となった。2023年度は公益財団法人 広島YMCAが主催する国際交流プログラム、平和教育プログラムが復活するので、積極的に生徒を動員し、一人ひとりの成長につなげたい。